

## 事業報告書

団体名	しろいしプロジェクト
代表者役職・氏名	代表 永井京花
事業名	白石和紙の可能性を発見するレジデンスプログラム
実施した事業の内容 ・活動内容 ・実施日時 ・場所 ・参加人数 等	<p>(1) 実施期間 令和7年12月17日～令和8年2月4日</p> <p>(2) 実施場所 ・白石レジデンス shiro (宮城県白石市南町1丁目2-68) ・つりがね庵 (アーティストトーク会場) ・白石和紙生産現場 (蔵富人)</p> <p>(3) 招聘アーティスト ・藤田恵梨子(日本人アーティスト) 1名 ・アマンダ・スミス(アメリカ人アーティスト) 1名</p> <p>(4) 実施内容 本事業では、国内外のアーティストを白石市に招聘し、白石和紙の生産現場見学および紙子製品の調査を行いながら滞在制作を実施した。</p> <p>主なプログラムは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白石和紙および紙子製品の生産現場見学</li> <li>・滞在制作および制作実験</li> <li>・アーティストトーク (12月26日/つりがね庵)</li> <li>・オープスタジオ (1月9日・15日・16日)</li> <li>・木版画摺りワークショップ (1月12日 午前：一般の部/午後：高校生の部)</li> </ul> <p>(5) 参加人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白石和紙および紙子製品の生産現場見学7名 (予定4名)</li> <li>・アーティストトーク参加者数：23名 (予定15名)</li> <li>・オープスタジオ来場者数：68名 (予定50名)</li> <li>・ワークショップ参加者数：14名 (予定7名)</li> <li>・延べ参加者数：105名 (予定72名)</li> <li>・白石市内参加者数 (推定)：58名</li> <li>・新規参加者数：12名</li> </ul>

事業の成果や効果

(1) 地域内交流の活性化

白石和紙を活用した制作活動を通じて、地域内の交流機会を創出した。

特に、長年白石和紙に関わりながらも近年十分な地域交流の機会を持っていなかった関係者との関係性が、本事業を契機に再構築された。滞在アーティストを介して生活文化的な交流（初詣への参加等）が自然発生的に生まれ、制作活動を超えた地域的つながりが形成された。

アーティストが地域と住民をつなぐ「媒介」となり、住民同士の関係性を緩やかに促進する役割を果たした点は、本事業の大きな成果である。

(2) 新規参加者の獲得と関係人口の拡大

市内のコーヒー店への広報設置など、地域内の生活導線を活用した周知を行った結果、これまでレジデンス事業に関わりのなかった新規参加者 12 名の来場があった。

これは、文化資源を軸としたまちづくり事業が新たな市民層へ浸透し始めていることを示している。

また、世代構成として若年層の参加が一定数確認でき、将来的な文化的担い手の裾野拡大につながる可能性が見られた。

(3) 白石和紙の対外的発信と波及効果

招聘したアメリカ人アーティストは現地大学の教員であり、帰国後に白石和紙を題材とした授業を実施予定である。

これにより、白石和紙の文化的価値が国外へ紹介されることが見込まれ、国際的な発信・交流の基盤構築という観点でも成果が得られた。

さらに、藤田氏は 2021 年以降継続して白石和紙を使用しており、継続的な活用事例の積み重ねとして、文化資源の持続的活用モデルを示すことができた。



白石和紙生産現場見学



アーティストトーク



紙や巻製品生産現場見学

木版画ワークショップ



木版画ワークショップ



白石和紙の担い手(初詣)

今後における事業展開

本事業では、参加者数や実施回数などの定量的指標によって成果を示している。一方、レジデンス事業においては、滞在を通じて生まれる継続的な関係性や地域内外の交流の深化といった、数値化しにくい側面も重要な成果の一つである。

アーティストが一定期間地域に滞在することにより生まれるのは、イベント的な消費型の参加ではなく、地域内にゆるやかに浸透していく関係性である。

今回の滞在では、白石和紙の担い手との交流が深化し、制作活動にとどまらず生活文化的な接点（アーティストと住民が共に初詣へ参加等）も自然発生的に生まれた。また、オープンスタジオに地域住民が友人を伴って来場するなど、人と人との接続がアーティストを介して拡張していく場面が見られた。

これらは参加人数の総数だけでは可視化できないが、レジデンスが地域社会の「関係資本」を蓄積している証左である。

レジデンスの価値は、以下のような質的要素にある。

- ・地域内に継続的に外部視点を導入すること
- ・文化資源を再解釈し、再価値化すること
- ・市民が制作プロセスに触れる機会を創出すること
- ・地域内の異なる層を緩やかにつなぐ媒介となること

単発の成果発表や短期的な集客を目的とする事業とは異なり、レジデンスは「時間をかけて関係性を編み直す装置」である。

今後は、定量指標に加え、

- ・新規参加者の継続関与率
- ・地域住民とアーティストの直接接触回数
- ・滞在後も継続する関係の数
- ・外部への波及事例（教育現場等）

といった質的評価の導入を視野に入れ、レジデンスが生み出している長期的な価値を可視化していきたい。

レジデンスは白石市における文化的インフラの一端を担う存在となり得る。本事業を継続的に実施することで、文化を基盤とした持続可能なまちづくりへと接続していくことを目指す。

## 収 支 決 算 書

団体名 しろいしプロジェクト

## 1 収入の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	摘 要
まちづくり交付金	211,000	211,000	白石市より
自己資金	40,746	61,328	
計	251,746	272,328	

## 2 支出の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	うち交付金対象額
作家招聘費	201,746	221,728	211,000
創作活動費	50,000	50,600	0
計	251,746	272,328	211,000

※支出を証する書類（領収書等）の写しを添付すること。